

引き継がれるデザイン思想 ブランドを追求するインテリアデザイナー



ロックストーンのエグゼクティブデザイナーを務める岩倉榮利氏。ワンデザイナーでありながらも6つのブランドを立ち上げ、日本のインテリア界に革命をもたらしてきた氏を紹介する。

引き継がれるバウハウスの精神

大学に入学するため、上京したものの、学生運動真つ盛りで、学校はずっと閉鎖状態で実家のある福島県に戻ってきました。そこで郡山デザインセンターの小泉庄吉さんに弟子入りしました。そこで初めてデザインという言葉と出会いました。小泉先生は、日本で唯一、バウハウスでデザインを学んだ山脇巖、道子夫婦に師事を受けておられた方で、その先生の下で2年間、徹底的にバウハウスの教育を受けました。その後、再び上京してデザインの勉強を始めました。ICS

カレッジオブアーツの門戸を叩き、そこで2年間、プロダクトやインテリアの勉強を続けました。卒業後も引き続き、武蔵野美術大学の島崎信氏に師事を仰ぎました。

先生の下では世界初の量産家具の革命的メーカーTHONETが150周年を迎えたことを記念した歴史展を担当しました。世界で初めて量産できる椅子を作り出したメーカーで、これまで木工職人が王族や貴族のために造ってきた椅子を大衆のための椅子とした革新的な企業の展覧会にかかわれたことはとても勉強になりました。一方で、ジャパンファニチャーグループに「カジュアルファニチャーGROUP」を出品したところ、内閣総理大臣賞を受賞し、これをきっかけにジャンルを問わず取り組んできた仕事もインテリア関係

の仕事が徐々に増えていきました。この約10年にわたる勉強の末、28歳の時に独立しました。パルコがパートナーIIでファッションをコンセプトとした館を作り成功を収め、続くパートナーIIIで生活者に軸足を置いた生活文化館というコンセプトで展開することとなり、その総合監修を任されることとなりました。テナントの配置や各ブランドにインテリアの企画を持ち寄るなどしてきましたが、誰も入らないスペースがあり、そこに来店する形で自身のブランド「ROCKSTONE」を展開することとなりました。そのブランドを肅々と続け、今年で33年目に突入しています。

ジャパンブランドの創生へ

約束の6ブランド

「ROCKSTONE」を立ち上げてから今では6つのブランドを持っています。まず飛騨高山の木工メーカーの職人とともにコラボレーションしたブランド「Takayama Wood Works」を1995年に設立しました。当時、月に2回ほど高山まで通いながら、職人とのつながりをつづつ積み重ねていき生まれたブランドです。高山では、職人たちの高齢化に伴い後継者不足という課題

を抱えていました。そこで名人の技を持つ定年を迎えた多くの職人と美術学校で学んでいる木工に興味のある若者たちとをつなぎ合わせることを仕掛けていきました。20代の若者と70代の職人との師弟関係は、良好な関係性が生まれ、雇用と技術継承の問題を一手に解決へと誘うことができました。今では日本的な美しいフォルムと繊細なディテールを保ちながらも高品質なハンドメイドの家具づくりを可能にしたことで、新しいビジネスモデルとなっています。

2003年に発表した「楽風庵」は、東南アジア地域が得意とする手工業の「編み込み」の技法を活かし、水牛の皮革を編むことで革のソファの弱点であった通気性の問題を解消することに成功しました。この手法

が認められ、2005年にはグッドデザイン賞を受賞することができました。この「ROCKSTONE」「Takayama Wood Works」「楽風庵」の3ブランドは私が主体となり、取り組んだデザイン活動です。2005年から加茂商工会議所と一緒に取り組んでいる「KAMOTraditional WOODJapan」は、私にとって新しいチャレンジとなりました。中小企業庁委託事業JAPANブランド育成支援事業として採択された事業として、私自身ではなく依頼を受けて始めたブランドとなります。新潟県加茂市は桐ダンスの生産量の約70%を占める日本一の桐ダンス産地ですが、海外から入ってくるライフスタイルに日本の生活様式が激変していく中、加茂の家

具職人たちも窮地に立たされてきました。江戸時代から脈々と受け継がれてきた伝統技術に、デザインとブランドという新しい概念を吹き込み、海外に打ち出し、新しい和のスタイルを追求するものづくりの取り組みをスタートさせました。「桐」はとても柔らかい材質で鉋をかけるだけでも、10年かかるといわれているほどの素材です。その桐を使って空気の逃げ場もないくらい気密性の高い精度で加工を施す桐ダンス職人の技術は世界を驚愕させました。

他多数

■いわくら えいり プロフィール

株式会社ロックストーン エグゼクティブデザイナー
株式会社岩倉榮利造形開発研究所 代表取締役
京都美術工芸大学 客員教授
学校法人環境造形学園ICSカレッジオブアーツ 理事
英国国立ノッティンガム・トレント大学 MAコース特任教授

略歴

- 1948 福島県生まれ
- 1966 郡山デザインセンター(インテリアデザイン研究室)
- 1968 ICSカレッジオブアーツ(インテリアデザイン科)
- 1970 株式会社島崎信デザイン研究所に入所
- 1973 【GROUP-1】ジャパンファニチャーショー内閣総理大臣賞受賞
- 1981 【ROCKSTONE】ブランド立ち上げ、渋谷パルコ・パートIII 3Fにショップオープン
- 1985 株式会社岩倉榮利造形開発研究所 設立
- 1996 木工職人合同ブランド【Takayama Wood Works】を発表
- 1999 日本インテリアデザイナー協会創立40周年記念事業「日本の生活デザイン展」を企画プロデュース
- 2001 福島県立美術館にて、福島の新世代 2001 SEVENROOMS「30CHAIRS・30YEARS」をテーマに出展
山形県・湯田川温泉「湯どの庵」プロデュース
イタリアマラノサローネ「和空(WA-QU)」展にて桐ダンス(KIRIDANS)を出展
長野県・藤温泉「明神館」プロデュース
- 2003 京都伝統工芸館にて、「岩倉榮利/家具の力展」開催
【楽風庵】発表(2003IFFTアワード金賞受賞)
【楽風庵】グッドデザイン賞受賞
- 2005 JAPANブランド育成支援事業【KAMO traditional WOOD Japan】プロジェクト開始
【KAMO】上海、ケルン、フランクフルト等国際家具見本市にて発表
- 2006 【KAMO】グッドデザイン賞・日本商工会議所会頭賞受賞
- 2007 【ROCKSTONE】【楽風庵】【KAMO】経済産業省支援策:生活関連産業ブランド育成事業「sozo_comm」に入選
- 2008 日本インテリアデザイナー協会創立50周年記念事業・特別参加事業展示「暮らしの原点」企画プロデュース
中国・東莞にて展示会主催者招致により、世界のデザイナー6名の作品展
「DESIGN GALLERY」に選出・出展
【楽風庵】【KAMO】パリ:ルーブル宮内・装飾美術館「感性Kansei-Japan Design Exhibition」に出展
- 2009 JAPANブランド育成支援事業【tobi-LIVING DESIGN TOKYO】を発表
独立35周年特別展「EIRI IWAKURA COLLECTION ~ The 35chairs」を開催
- 2011 【tobi】パリ:メゾン・エ・オブジェに出展
- 2012 奈良県十津川村の家具プロジェクト【TOTSUKAWA LIVING】を発表
上海(JSWB国際家具村)・東京(リビングデザインセンターOZONE)ROCKSTONEショールーム同時オープン
- 2014 【GREEN】を発表
「KITANI STYLE DESIGN」空間をつくる椅子展」プロデュース

KITANI STYLE DESIGN

-5人のクリエイターと匠が綾なす至高の新作家具-

「空間をつくる椅子展」



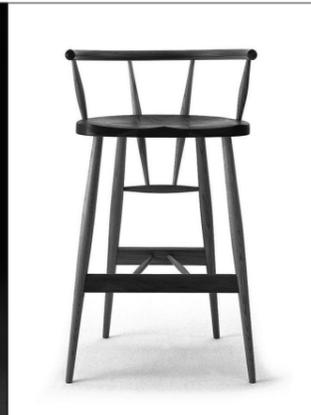
9・9 ~ 14

会場：キタニふれあいホール

会期：2014年9月9日(火)～14日(日)

9:30～18:00

株式会社キタニジャパン
〒506-0034 岐阜県高山市松倉町2115 番地 TEL:0577-32-3546 FAX:0577-32-0126 <http://www.kitani-g.co.jp>



①2014年9月、高山で開かれた「空間をつくる椅子展」のポスター ②KITANI2014 アームソファ「Marilyn」 ③KITANI2014 ニューソファ「Marilyn」
④(左から)ROCKSTONE 1981年～/Takayama Wood Works 1995年～/楽風庵 2003年～/tobi - LIVING DESIGN TOKYO 2009年～

開いています。江戸時代から受け継がれた職人の技を持つ東京都・芝エリアの家具職人たちの高い技術を活かした東京都家具工業組合が推進する高級ブランドです。例えば、江戸切り子の精巧な技術を家具に落としこむことで新しいしつらいを実現させています。国内外のハイエンド市場に向けて、家具のオートクチュールとして事業展開しています。

また奈良県十津川村から家具の製作依頼を受け、村民の温かさ、村としては全国一の総面積を誇りながらも、その96%が森林という豊かな自然環境に惹かれて、十津川村家具プロジェクトがスタートしました。2012年からは「TOTSUKAWA LIVING」のブランドとして引き受けています。紀伊山地の真ん中にあり、アクセスが悪いため、流通を考えるよりも、むしろ、自分が使いたいと思えるような家具をつくるように話をしてきました。その結果、ベンチいすやろりテーブルなど商品化にこぎつけ、上海で販売されるようになりました。

「KAMO」、「tobi」、「TOTSUKAWA LIVING」の3つは、自身のブランドとしてではなく、いずれもデザイナーという立場でかかわらせていただいています。ブランドとは約束だと思っている私にとって、この6つの約束事はしっかりと果たしていきたいと思っています。

「調和」する生活デザイン
果たすべき約束事

これまでのデザイン活動の根底には「こんな家に住みたい」という思いがあります。その感覚に従い、これまでデザインしてきました。それを言葉にすると、人ともとの空間と調和していることだと思っています。すなわち、私自身も一人の人間として自己を見つめていくことで、より心地よいデザインが生まれてくるものだと思います。それはまさしく、ブランドが約束事であることと同時に、デザインがそれを担保するものとして考えています。

最近、飛騨高山にある株式会社シラカワのショールーム「匠館」のリアルプロデュースと家具デザインを担当させていただきました。プロデュースを行う中で、まず「飛騨の小京都」と呼ばれる「さんまち」の風雅な街並みにマッチするように心がけました。

1階にはカフェと土産品や木工クラフト製品、食品などの販売コーナーを設け、2階にシラカワのインテリアショールーム、3階にはこれまで団体の観光客が収容できるレストランが高山にはなく、大勢の観光客が訪れてもゆつくり休める場所を確保できるように、最大166席の飛騨の食材を使ったイタリアンレストランを設けました。やはりこのように地域活性化に寄与できる観光拠点として生まれ変わらせることを念頭に置きながら、取り組んでいました。

また、キタニふれあいホールでは「KITANI STYLE DESIGN 『空間をつくる椅子展』」と題して、インテリアデザイナーの梅田正徳氏、浦原潤氏、トビアス・ヤコブセン氏に加え、若手デザイナーの加藤将氏と私の5人のクリエイターの新作展示のプロデュースを担当しました。

それぞれのお話は、約10年ぶりにいただいたものです。そのきっかけとなったのも、独自ブランドの「Takayama Wood Works」で培ってきた人脈によるものでした。その依頼を受けた瞬間、これまで取り組んできた「約束」はしっかりと守ってこられたように思いました。そして今後も、この約束をしっかりと守り通していけるように努めていきたいと思っています。